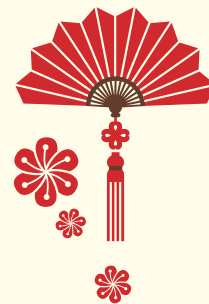


中国古典文学思想をふまえた生き抜く知恵 ～次世代の子どもたちにレジリエンスを伝える～

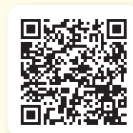


奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
富山 敦史 先生

私は、文字の読み書きや学びに困難を抱える子どもたちが、自分自身で必要な学びの方法を選び取るための学習環境や支援、国語科授業のあり方について研究しています。今回は、不安や困難を受容するネガティブ・ケイパビリティ、またそれらを跳ね返すレジリエンスと自己効力感について、中国の古典文学や思想の生き抜く知恵や生き方を基盤にしてお話します。ご参加の皆様とともに「誰もが生きやすい社会づくり」について考えます。



こちらから
申込みください。



第25回登美ヶ丘カレッジ
申込フォーム

開催予定

日時：2025年5月17日(土) 13:30～15:00

場所：奈良学園大学 3号館 1階 3101教室

定員：30名(定員に達しましたら、募集を締め切らせていただきます)

ニュースレター第16号 編集後記

今年度のニュースレターは、奈良学園大学開学10周年記念【特別寄稿】を掲載させて頂きました。歴代の学長先生方、特別客員教授の先生方と続いております。この間に継続している国際交流の取組の1つとしては、「蘇州科技大学オンライン交流会」があります。12月に「多文化共生について語り合おう!」をテーマとして、両校の学生同士等36名が充実した意見交換をしました。(3月末以降の「国際交流記録文集」をHPでもご覧ください。)

クラブ活動では、硬式野球部は「2024秋季リーグ戦優勝」、「近畿学生野球連盟新人戦優勝(3季連続)」で、マーチングバンド部も毎年全国大会で金賞・銀賞と輝かしい賞を獲得しており、連綿とした活躍を続けています。さらには、「わいわいフェスタ」等の地域活動に貢献するサークルも両学部には有り、学生の姿は、ますます頼もしくなっていくようです。

今後は、2月23日(日)「冬のお楽しみ会」や3月23日(日)「そうだ!ナラガクにこう」等、地域の皆様にご参加いただけるイベントが予定されています。奈良学園大学の発展にますますご期待ください。



奈良学園大学
社会・国際連携センター長
善野 八千子

発行

奈良学園大学
社会・国際連携センター

〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1
TEL: 0742-93-5405 FAX: 0742-95-9850

各種公開講座が開催されました

第22回 登美ヶ丘カレッジ開催

11月16日(土) 音楽のたのしみ
講師：人間教育学部 音楽専修 青山 雅哉 先生
人間教育学部 音楽専修 森瀬 智子 先生

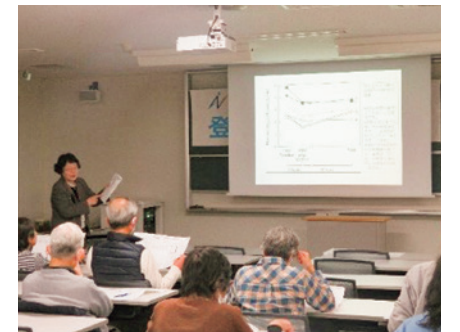


第22回目の登美ヶ丘カレッジは、奈良学園大学3号館1Fを初めての会場とし「音楽のたのしみ」をテーマに音楽の演奏会として開催いたしました。

前半は、ピアノ・声楽・フルートアンサンブルの出演による、日本の作品や親しみのある曲目による演奏、後半は奈良学園登美ヶ丘中学・高等学校室内楽部のゲスト出演による弦楽合奏曲をそれぞれ披露いたしました。プログラム最後には、歌曲「小さな空」を出演者全員による伴奏とともに、ご来場の皆様にも歌唱で御参加いただき、和やかにこの会が閉じられました。皆様からは、音楽のたのしさを味わうことができ、とても心安らぐ時となったとの声をいただくことができました。 文責：青山 雅哉

第23回 登美ヶ丘カレッジ開催

12月7日(土) 新しい研究成果を活かした健康な生活
講師：保健医療学部 看護学科 臼井 キミカ 先生



登美ヶ丘カレッジを担当させていただき、奈良学園大学の構成員の一人であるとの認識を深めることができた時間だったと実感しております。実は、「テーマ」は決まっていたものの、この1～2年の間に多くの興味深い研究成果が公表され、どの研究をとりあげるのが、参加者の皆さまのニーズにマッチするのか、開始の直前まで迷っておりました。そのような訳でお顔馴染みの方が着席されていることに気づき、ホッとしたことを覚えております。アンケート結果に記載していただいたことを活かしながら次回に備えたいと思っております。

文責：臼井 キミカ

奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション 学科との教育・学術連携について

医療法人健和会
奈良東病院リハビリテーション科
統括科長 沼田 一成



当院リハビリテーション科は去る2024年3月28日に奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科と教育・学術連携協定を結ばせていただきました。締結式には当院から理事長、院長、事務長と私で出席させていただきましたが、奈良学園大学の理事長先生や学長先生もご臨席され、改めて事の大きさを感じた次第です。

それからもうすぐ1年近くになり、臨床実習で学生さんが来られることも多くなりましたが、理学療法学・作業療法学専攻の教員の先生方が当院職員への講義や指導にお越し下さり、当院からは学生さんの講義に行かせていただくなど相互の交流が増えました。

その中でも多疾患併存の高齢患者が多い当院では褥瘡の問題も抱えており、その治療に難渋しておりますが、教員の先生に講義に加え当院の褥瘡委員会や褥瘡回診にもご参加いただき、リハビリテーション科だけでなく医師・看護師等の他職種とも交流していただいていることは非常に大きな力となっています。この連携をさらに深め当院職員だけでなく学生さんや教員の先生方にも有益な連携となるように努めていきたいと思っております。今後とも何卒宜しくお願い致します。



奈良学園大学
開設10周年記念

特別寄稿

奈良学園大学の更なるチャレンジャー魂を



特別客員教授
小谷 勝彦

奈良学園大学は、今年、設置11年目を迎えました。初年度に開設された「教師塾」の担当が本学での私のスタートでした。「教師塾」で学生との学びを重ねる中、新しい大学の一期生としての使命と目指す姿について話し合った事がありました。その結果「教師塾」としては「不屈のチャレンジャー魂」にしようと決めた事が思い出されます。

話し合いの際、私は以下の様な話を示しました。(私が若い頃、先輩の商社マンから聞いた逸話)「ある国の靴のメーカー2社(A社B社)が開発途上国に靴を売る為、営業マンを現地に派遣し調査を命じた。Aの社員は『この国では靴は売れません。靴を履いている人は誰もいませんから』と報告し、Bの社員は『靴は売れます。靴を履いている人は誰もいませんから』と本所に伝えた」という話です。

課題に向かうとき、ポジティブに受け止めること、そして、困難な状況からでも解決策の可能性を探ろうとする姿勢の大切さに気付いたからこそ、彼らは「チャレンジャー魂」の言葉にたどり着いたのだと思います。

本学の卒業生の各界現場での活躍ぶりが最近よく聞かれます。頼もしい限りです。

先日も「教師塾」一期生のI君、O君(共に小学校の教員)が、正に「チャレンジャー魂」を発揮し、市の中堅教員のリーダーとして高い評価を受け健闘している実態を知りました。梶田元学長が常に口にされている本学の「大化け」を確信すると共に、本学の今後の更なる飛躍を心から期待します。

奈良学園大学の教員紹介

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科

田中 紀子 先生



研究分野は、数学教育、数学教育史、数学史です。数学教育ではおもに探究的な学びを、数学教育史では戦中の特別科学教育学級や江戸時代の数学の学び方を、そして数学史では和算や確率論史を研究しています。

授業では、中学校・高等学校の数学科教員を目指す学生に、数学科教育法などを教えています。日本の子どもたちは、世界調査で数学や理科の学力はトップレベルですが、「数学や理科が楽しい」と答える子どもの割合は世界平均を大きく下回っています。学生には、数学の楽しさを伝えられる教師になってほしいと願っています。

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

西出 順子 先生



私は精神看護学を担当しています。看護師時代に「心の回復なくして身体の回復はない」を痛感し心理学を学びました。社会人からの大学・大学院での生活は大変貴重な体験になり、心の安全基地の一つとして機能しています。以降、「共感」をキーワードに人との関係性が治療的に発展する相互作用について探求しています。

もう一つ自身を支えるものとして登山があります。見たことのない景色に出会い、眠っている情緒が湧き上がる体験はもちろんのこと、老若男女山好きの人達の中で人本来の在り様に触れ、謙虚な気持ちに戻れるところに魅力を感じています。

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

三上 亮 先生



「理学療法士として自信を持って社会で活躍できる人材を育てたい」という思いを胸に、理学療法教育制度の政策過程分析や専門職教育に関する研究に取り組んでいます。これまでの臨床経験を活かし、授業では学生が主体的に考え、自分の成長を実感できるような学びを提供することを心がけています。また、臨床現場での継続教育を通じて、理学療法の専門職としての価値向上にも貢献したいと考えています。学生の皆さんと共に成長し続けることを大切に前へ進みます。

卒業生からのメッセージ



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
7期生
今西 愛 さん

私は、奈良学園大学で中学校・高等学校教諭(国語)、特別支援学校教諭の免許を取得しました。奈良県の教員採用試験に合格し、中学校の教員になって2年目を迎えます。

中学校では毎日が忙しく、多くの責任ある仕事の中で、時にしんどくなってしまうこともあります。しかし、毎日教室に入り、子どもたちと関わっていると、教員になってこの子達に出会えて本当に良かったという喜びが込み上げ、私を助けてくれます。

大学時代にはボランティアサークルやオーキャンスタッフの活動に積極的に参加しました。大学での出会いや経験が今の私を作っています。多くの学びの機会を与えていただいたことに感謝しております。

在学生からのメッセージ



奈良学園大学
保健医療学部
看護学科
2回生
植田 嘩音 さん

私は、対象者一人ひとりに寄り添ったケアを心がけ、信頼される看護師になりたいです。そのため授業ではコミュニケーションスキルや倫理観を磨くことに力を入れており、患者さんの背景やニーズを理解することで、より質の高いケアを提供できるよう努めています。また、患者さんだけでなく自分自身や同僚のメンタルヘルスにも気を配れるよう、授業ではストレスマネジメントやチームワークについて学び、実際の医療現場でどのように活かすのかを考えています。さらに、将来は災害看護など国際的な医療現場でも活躍したいと考えています。そのために、異文化理解や語学力を高める授業にも積極的に取り組んでおり、多様な背景を持つ患者さんに対応できる看護師として成長したいと考えています。

看護学科 LOTUSPOND GROUP の取り組みについて



私たち (LOTUSPOND GROUP ; 20名) の目標は、患者さんやご家族の不安になる気持ちを少しでも和らげられるように、心情を思いやり、生活の支えに役立てるような看護師になることです。その目標が叶えられるよう、日々勉強に取り組んでいます。

勉強だけでなく、課外活動として、LOTUSPOND GROUPにおけるサークル活動やオープンキャンパス学生スタッフなどにも積極的に参加しています。オープンキャンパス学生スタッフとして、多くの人と関わることができたり、周囲の人と協力する重要性を学んだりすることができます。看護師を目指していくにあたって、たくさんの人と関わっていくことで必要なあらゆる知識を得ることができると思います。座学だけでは学べないことも、このボランティアを通して得ることができます。今後も様々な面からの学びを得て目標に向けて、私たち学生も努力していきたいと考えています。また、本活動を通して、私たち学生 (LOTUSPOND GROUP) は、看護師の勉強以外にも他学年や他学部との関わりやみんなと協力して成し遂げる達成感など、さまざまな学びを得ることができます。人との関わりを大切にして目標に向けて努力していきたいと思っています。

文：刀祢 沙衣(看護学科2回生) 文責：上野 栄一

